

No	提 案 名	提案団体名	
		代表者氏名	所 属
20	タガワ・リバーサイド・アーキテクチャー -宇都宮市における河川軸計画-	宇都宮大学 安森亮雄研究室 B	
		勝又 亮介	宇都宮大学大学院 工学研究科
		指導教官 氏 名	安森 亮雄

## 1 背景と目的

JR宇都宮駅の近くを流れる田川はかつてボート遊びや舟運として利用され川沿いに人の賑わいが溢れていた。しかし、戦後の高度経済成長期の都市化、工業化による水質汚濁や効率重視の護岸整備により、川と人々の暮らしは遮断されてしまった。現在では、川沿いに戸建住宅や駐車場等の低利用のものが多くみられ、豊かな水辺空間が十分に形成されていない。

今後はLRTの導入やコンパクトシティの構想が高まる中で、自動車から歩行者中心の社会に変化していくと考えられるとともに、人口減少、少子高齢化の問題などから都市の回遊性や、自然との調和の中で都市を捉え直す必要がある。

そこで田川沿いを宇都宮の都市構造の新たな河川軸として位置づけ、人が集まり回遊できるようなプロムナードを整備するとともに、川沿いの特徴的な街区を対象として駅前空間の再整備と地域産業の継承を目的としたタガワ・リバーサイド・アーキテクチャーを提案する。

## 2 田川と宇都宮市の都市空間の変化

### 2-1. 田川の概要

田川は日光市を源流として、宇都宮市街地を経て鬼怒川に合流する流路延長面積 77.9 m<sup>2</sup>、流域面積約 246 m<sup>2</sup>の一級河川である。(図 1)

江戸時代初期には用水の取り込みが行われ、流域の水田を灌漑していたとされる一方で、「暴れ川」としても知られ過去に幾度も氾濫していた。その後のカスリーン台風の実績降雨規模で田川改修工事に着手し、現在はコンクリートの護岸が整備されている(表 1)。

地上から 3.5m ほど低いところに遊歩道が整備されているもののベンチや休憩場所があまりなく、有効に活用されている様子はみられないのが現状である。



図 1 現在の田川の様子

表 1 田川関連年表

西暦	出来事
1941	大雨による洪水
1947	カスリーン台風による洪水
1948	アイオン台風による洪水
1951	田川改修工事着手 (H25年には鬼怒川合流点から逆川合流点までの区間が概成)
1972	田川浚渫工事着手
1976	釜川放水路着手 (競輪場通り地下にトンネルを掘り、田川までの1.6kmに放水路)
1983	釜川からのバイパス下水道工事着手 (県庁前通り地下に分水路を建設し、田川に放流)
2006	田川洪水予報の開始

## 2-2. 宇都宮市の都市形成の歴史

宇都宮市は元々二荒山神社の門前町として栄え、江戸時代には日光街道・奥州街道の追分となる宇都宮宿の宿場街ともなった。(図 2) しかし、1868 年に起こった戊辰戦争で旧幕府軍と新政府軍との激しい攻防の舞台となり、その戦火によって宇都宮城を含む中心部の建造物の多くが消失してしまった。

この大きな災害から十年後、新たに鉄道を材木町通りに通す計画であったが、大火災の記憶が新しいこともあり、火災の危険性が危惧され、火消しの意味もある田川付近の現在の場所に鉄道が整備された。このため、宇都宮の市街地から離れた JR 宇都宮駅周辺は活気づき、旅館や運送屋、茶店や商店が軒を連ねるようになった。田川沿岸でも宇都宮の伝統工芸である宮染めの工場や製紙工場などが立地し多くの産業で賑わった。(図 3、図 4)

このような背景から、宇都宮市は二荒山神社周辺と JR 宇都宮駅周辺の 2 つの核を持つ都市構造となっている。

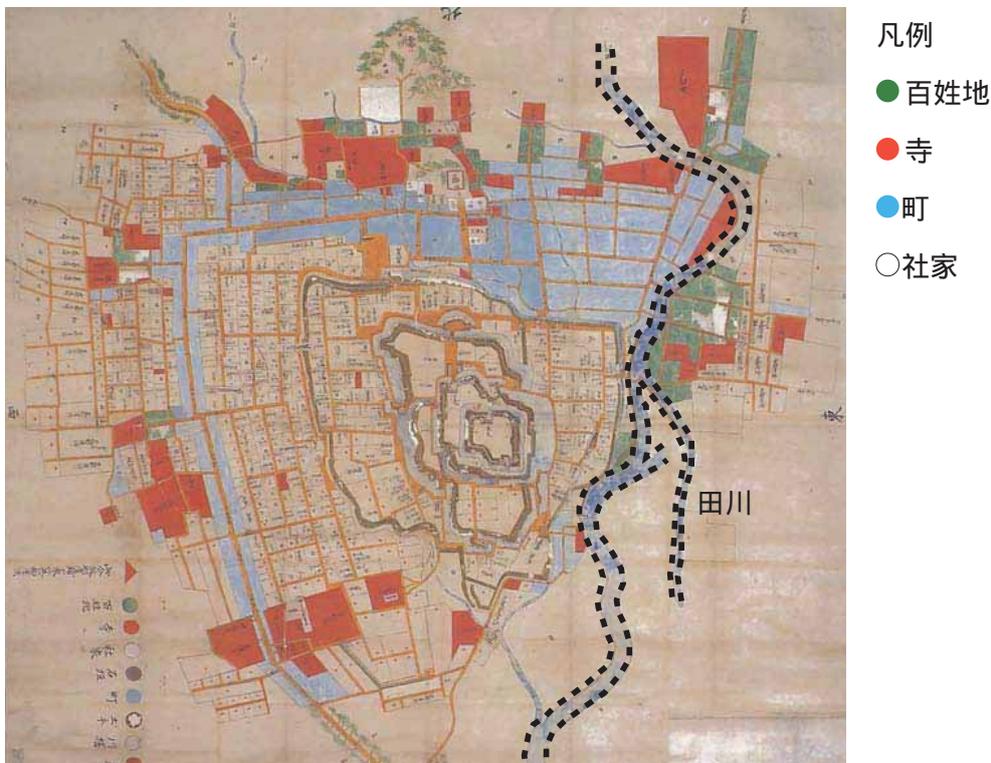


図 2 宇都宮城下絵図 (1710~1794)

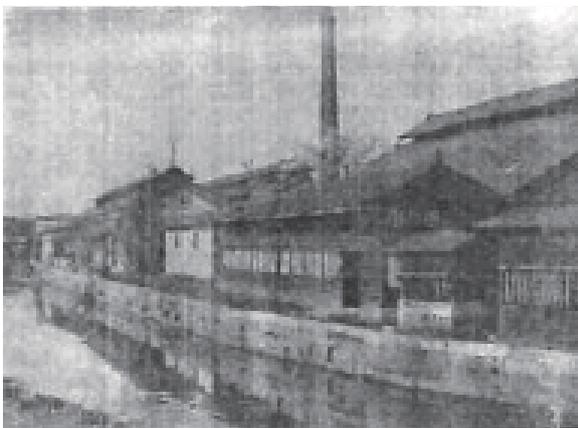


図 3 田川沿いの下野製紙株式会社



図 4 田川沿いで宮染め作業風景

### 2-3. 宇都宮市の都市構造

宇都宮市都心部の都市構造は東武宇都宮駅周辺のセンターコア、JR宇都宮駅周辺のJRコアと、2つのコアを結ぶ大通りである東西都心軸、二荒山神社と城址公園を結ぶ歴史軸、県庁と市役所を結ぶ行政軸、オリオン通り・ユニオン通りのある商業軸によって構成されている。(図5)

また田川は、宇都宮市中心部を流れる2層式構造の遊歩道(釜川プロムナード)が整備された釜川や、2つのコア同士を結ぶ大通り、県庁前通り、いちょう通りの主要道路と交わる。

そこでこの都市構造の中に新たに河川軸をつくることで、2つのコアを結び街全体に回遊性を創出する。



図5 宇都宮市の都市構造

## 3 田川周辺の現状

### 3-1. 田川沿いの要素

田川沿いには戸建住宅や駐車場など低利用のものが多くみられる一方で、魅力的な要素も点在している。(図6)

田川は宇都宮城の外堀であったため寺社など多く立地している。さらに東橋の南には大洪水災害後に創建された仙波水天宮、幸橋周辺には国指定重要文化財である旧篠原家住宅がある。また上河原通りでは毎年1月11日に初市(だるま市)され、7月上旬には栃木県の特産品である「ふくべ」で造った筏に灯籠を付帯して灯し放流する、ふくべ灯籠流しなどが行われる。JR宇都宮駅周辺にはララスクエアやPASEO(駅ビル)などの高層の商業施設やホテルが多くみられる。押切橋、洗橋付近には宇都宮の伝統工芸であるふくべ細工や宮染めを営む建物や、大谷石の蔵が特徴の宮みそのお店などがある。

そこで今回は下記の2つの敷地を選定し、設計する。

- ・街区A …… JR宇都宮駅の駅前空間であり、大通りにも面していることから50万都市の玄関口として重要な場所である。
- ・街区B …… 伝統工芸の職人さんが今も働いており、釜川プロムナードと交わることから宇都宮の文化や歴史を反映できる場所。

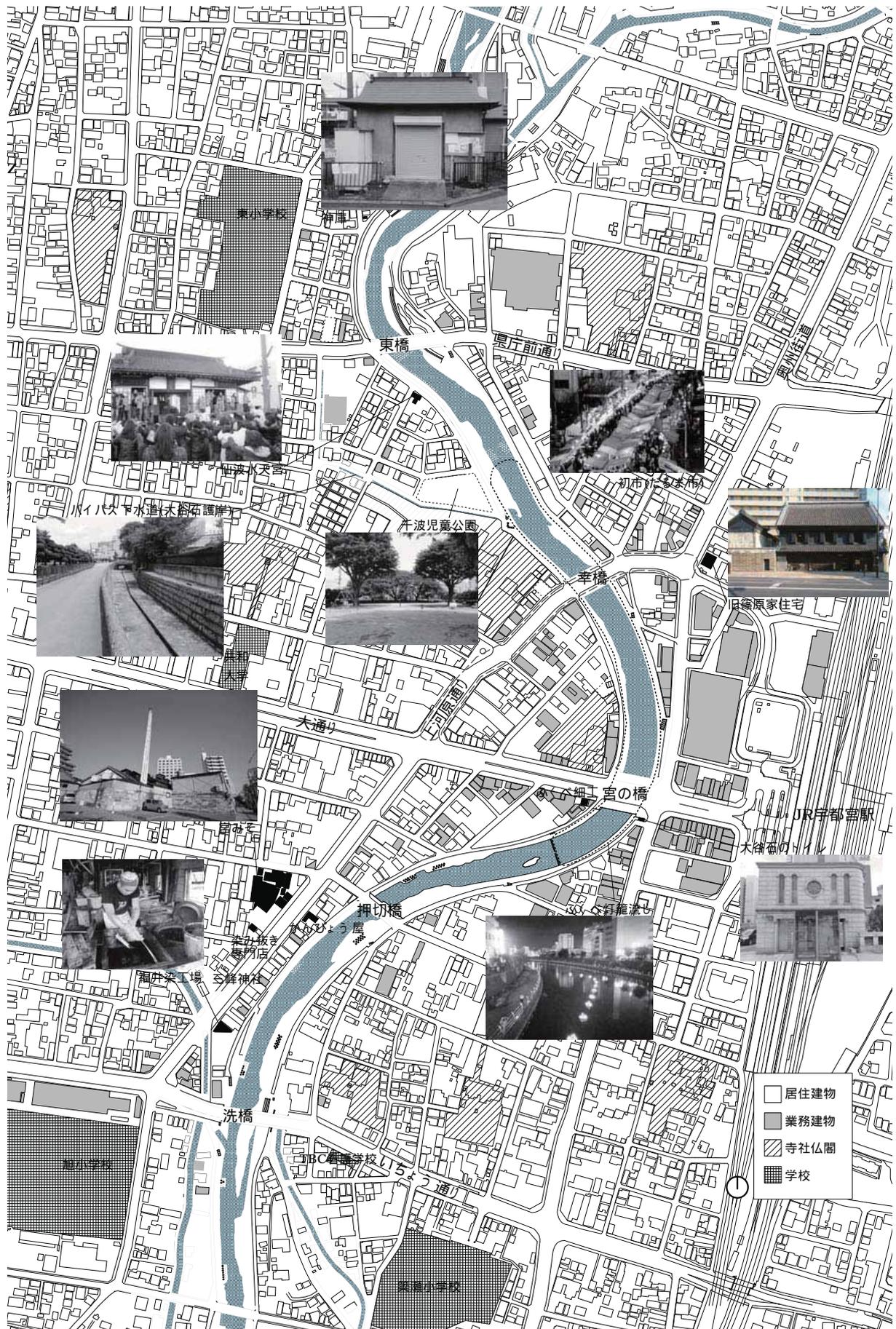


図6 田川沿いの建物用途と魅力的な要素